

平成28年度第1回中仙地域協議会会議録

平成28年 4月25日

中仙地域協議会

平成28年度第1回中仙地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■副市長あいさつ	2
■職員紹介	4
■会議録署名委員の指名	5
■説明	5
(1) がんばる集落応援事業について	5
(2) 大仙まちづくり基本条例について	6
(3) 中仙地域自主防災組織結成率の向上について	6
■報告	7
(1) 平成27年度地域枠予算実績報告について	7
■協議	7
(1) 平成28年度地域枠予算執行予定事業について	7
■その他	11
■閉会	14
■署名	15

■日 時：平成28年4月25日（月曜日）午後2時

■会 場：中仙支所2階 第21会議室

■出席委員：13名

秋山吉雄、遠藤まき、草薙幸隆、児玉誠良、高橋一
佐々木亨、佐々木正一、柴田真希亜、高橋成悦、玉井勝壽
傳農富士夫、松塚勝男、柳田トシ

■欠席委員：5名

秋山康、熊谷亮、高橋泉、高橋久逸、寺田文夫

■出席職員：13名

老松 博行（大仙市副市長）	高橋 利省（中仙支所長兼地域活性化推進室長）
草別 真紀子（市民サービス課長）	戸堀 圭喜（市民サービス課参事）
榊田 成悦（市民サービス課参事）	渡邊 清彦（農林建設課参事）
山田 増美（中仙公民館参事）	田口 美和子（企画部まちづくり課主幹）
加藤 健一郎（企画部総合政策課副主幹）	高橋 靖弘（企画部まちづくり課主席主査）
川原 潤哉（企画部まちづくり課主事）	山信田 恭弘（地域活性化推進室副主幹）
進藤 哲規（地域活性化推進室主席主査）	

■次 第：

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長あいさつ
- 4 副市長あいさつ
- 5 職員紹介
- 6 会議録署名委員の指名
- 7 説 明
 - (1) がんばる集落応援事業について
 - (2) 大仙まちづくり基本条例について
 - (3) 中仙地域自主防災組織結成率の向上について
- 8 報 告
 - (1) 平成27年度地域枠予算実績報告について
- 9 協 議
 - (1) 平成28年度地域枠予算執行予定事業について
- 10 その他
- 11 閉 会

(午後2時00分 開会)

○事務局(地域活性化推進室) 開会を宣言

【委嘱状の交付】

金子美喜男委員の辞任に伴い、秋山吉雄さんが新たに委員に委嘱されることとなり、老松副市長より委嘱状が交付されました。

○傳農中仙地域協議会会長(以下「会長」と表記)

今年の3月から4月にかけて三寒四温の天気が続き、桜がどうなるかと心配しておりましたが、時節は時節でございまして、このように豪華絢爛の時期を迎えました。本日は年度初めということで、公私共にお忙しい中、委員をはじめ本庁からは老松副市長さんをはじめ幹部の皆さん、そしてまた支所からも支所長はじめ幹部の皆さんからご出席をいただきました。厚く御礼申し上げます。

年度末の協議会でもお話ししましたが、去年は地域予算や色々な事業に対し委員の皆さん、そしてまた市当局から格別なるご支援とご協力を賜り、大過なく過ごさせていただきました。これもひとえに皆さんのおかげと感謝しております。

本日は年度初めの協議会でございますが、資料にありますとおり説明・報告・協議があるようでございます。皆さんからのご意見・ご協力をいただきたいと思います。

さて、この後説明があるかと思いますが、昨年、大冊の第2次大仙市総合計画基本構想が発表されました。これに基づきまして、これも後ほど説明がありますが、大仙市まちづくり基本条例が制定されました。市民みんなが市政に参加してより良いまちづくりをしようということでありますので、我々も協力しがんばっていこうと思っております。

本日は会議の後に「その他」を設けております。老松副市長はじめ幹部の皆さんがいらしてありますので、委員の皆さんから色々なご意見、ご質問等をいただき有意義な会議となりますようお願いしております。

開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。どうぞよろしく願い申し上げます。

○老松副市長(以下「副市長」と表記)

大仙市副市長の老松博行です。4月より引き続き副市長を勤めさせていただくこととなりました。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに熊本県を中心に大きな傷跡を残しております熊本地震により犠牲になられた方々のご遺族の方々に深くお悔やみを申し上げたいと思います。また、被災され今なお不自由な生活を強いられております多くの皆様に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

大仙市では被災地支援のため、被災した建築物の応急危険度の判定用務にあたる市職員を熊本に派遣することといたしました。本日、建設部の職員であります建築士4名が被災地に向け出発したところであります。今後、支援活動にあたることとなっております。また、被災地の深刻な水不足、断水をうけまして、10リットルの飲料水が入る給水袋1000枚を近日中に現地へ送ることとしております。その他、市職員による義援金を現在取

りまとめており、日赤を通じて現地に送る予定となっております。依然として大きな余震が続き、復興への道筋がまだ見えない状況であります。被災地の一日も早い復興を心から願いたいと思っております。

本日は、ご多忙にもかかわらず「平成28年度中仙地域協議会」にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

皆様には、市民と行政との協働によるまちづくり推進の核として、地域課題を解決する仕組みづくりや、地域枠予算の活用、各種計画への意見、施策・事業に係る提言の取りまとめなど、地域の特色を活かした活発な活動を展開していただいております。

また、昨年度は「地域協議会」並びに「地域枠予算」について、制度創設から一定の節目を迎えたことから、委員の皆様からたくさんのご意見をいただくとともに、様々な角度から制度の検証を行い、地域協議会の運営や地域住民への周知方法、地域枠予算運用に係るガイドラインの改正など、深く掘り下げて見直しを行っていただいたところであります。重ねて御礼申し上げます。

さて、大仙市では平成18年3月に、地方分権時代にふさわしい「市民と協働のまちづくり」を市政運営の基本方針とした「大仙市総合計画基本構想」を策定し、本計画のもと子育て・教育、医療・福祉、産業、防災など喫緊の課題に取り組んでまいりました。

昨年度をもってこの計画期間が終了したことから、この度、平成28年度から始まる10年間の重点的な取り組みやまちづくりの基本を明らかにした、市の新たな羅針盤となる「第2次大仙市総合計画」を策定したところであります。

この総合計画では、合併からこれまでの取り組みを総括した形で、「生き活きと生活し働くことのできる活力と創造にみちたまち」、「ともに助け合い支え合う安全・安心のまち」、「豊かな人材と生活環境が整った魅力あるまち」の3つを基本理念としております。

この総合計画の策定にあわせ、地域協議会の皆様からご協力をいただきながら、総合計画の地域版となる「地域振興計画」も策定いたしております。この計画では、10年先を見据えた「地域の目指すべき姿」とそれを実現するための具体的な取り組みが示されております。

また、人口減少・超高齢社会の対策について基本的方向と具体的な施策をまとめた「大仙市人口ビジョン」及び「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についても、総合計画の策定にあわせて策定しております。

今後、市が進むべき重要な道筋となるこれら計画のもと、市民目線に立った実効性のある市政の運営にあたってまいりたいと考えております。

中でも、昨今の重要課題となっております「人口減少・少子高齢化対策」につきましても、全庁体制で取り組まなければいけない政策課題となっております。市の組織体制におきましても、企画部総合政策課内に「人口対策班」を新設し、各課で行っている施策の連携や調整、検証などの総合的な舵取り役を担うほか、課題解決に向けた新たな施策等の検討を行っていくことにしております。

また、同じく企画部のまちづくり課に「だいせんライフ促進班」を新設し、豊富な地域資源を活用したまちづくりを進めていくとともに、本市の魅力を積極的に情報発信し、

若者の定住や移住の促進などをこれまで以上に取り組んでまいります。この「だいせんライフ促進班」では、移住・定住に関する窓口を一本化しながら、首都圏ふるさと会をはじめ、県が首都圏に設置している相談窓口などとの連携を図り、お試し移住や空き家バンクの活用周知など、より密度の高い情報発信や情報収集に努めてまいりたいと考えております。

また、昨年度は新市誕生から10年という節目にあたり、これまでの「市民と行政との協働」の成果を土台に、市民が主役のまちづくりをさらに進めるためのルールを定めることを目的とした、「だいせんまちづくり基本条例」を制定したところであります。この条例は、少子高齢化や人口減少による地域社会の様々な問題が顕在化する中で、これからのまちづくりにはこれまで以上に市民の知恵と力が必要になるという認識のもと策定したものであります。今後、一定の周知期間を経まして、平成28年10月1日から施行する予定で準備を進めているところであります。

また、ここ中仙地域の主な取り組みについてお話いたしますと、本年度より新たな地域活性化策ということで「なかせんコミュニティスタンプラリー」「ドンパン節の里なかせん活性化プロジェクト」の二つの事業を推進してまいります。いずれも、地域住民の皆さんの主体的な活動を応援していくという事業になります。住民の皆さんから興味・関心を持ってもらい、参加することに価値を見いだすこと、また、主催する側にとっても満足度の向上に繋がりたいということで、楽しみながら地域活動を活性化する「きっかけづくり」をしたいとする取り組みとなります。

大仙市では、今後ともこうした取り組みをはじめ、本市の発展・飛躍につながるような施策を展開するとともに、「市民と行政との協働」のもと、市民が誇りと責任を持って活躍できるまちづくりを引き続き進めてまいりますので、委員の皆様には、これまで以上のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本日の協議会が実りあるものとなり、地域発展に資する契機となりますことをご期待申し上げますとともに、皆様の益々のご活躍とご健勝を心からご祈念申し上げます。挨拶といたします。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

【職員紹介】

高橋支所長が本庁及び支所職員を紹介（紹介順）

副市長	老松 博行
企画部まちづくり課主幹	田口 美和子
企画部総合政策課副主幹	加藤 健一郎
企画部まちづくり課主席主査	高橋 靖弘
企画部まちづくり課主事	川原 潤哉
中仙支所市民サービス課長	草別 真紀子
中仙支所市民サービス課参事	戸掘 圭喜
中仙支所市民サービス課参事	榊田 成悦

中仙支所農林建設課参事	渡邊 清彦
中仙公民館参事	山田 増美
中仙支所地域活性化推進室副主幹	山信田 恭弘
中仙支所地域活性化推進室主席主査	進藤 哲規
中仙支所長兼地域活性化推進室長	高橋 利省

○事務局（地域活性化推進室）

それでは協議に入りたいと思います。

本日の協議会は委員の2分の1以上の出席をいただいておりますので、本協議会は成立しますことをご報告いたします。

それでは、会議の進行につきましては条例の規定により傳農会長にお願いいたします。

○会長

それでは次第6の「会議録署名委員の指名」ですが、今回は高橋一委員と柴田真希巫委員をお願いいたします。

それでは次第7の「説明」に入ります。

はじめに（1）の「がんばる集落応援事業について」市より説明をお願いします。

○川原企画部まちづくり課主事

資料に基づき説明。

○会長 ただいま説明がありました。皆さんよりご意見ご質問をいただきたいと思います。

○高橋成悦委員 現在ある、世帯割などで算出されてくる補助金とは別の制度なのでしょうか。

○田口まちづくり課主幹 各自治会へ交付されている自治会育成補助金とは別の、新たな補助制度となります。

○高橋成悦委員 新たな事業というと、例えば集落で小正月行事とやりたいとなった際に補助していただけるということでしょうか。

○田口まちづくり課主幹 中仙地域は昨年まで行っていました「がんばる集落活性化支援事業」を下桜田集落が夏祭り開催ということで利用しました。今回もそういった形でこれまで行われていなかった事業に対して、新たに行うとか復活させるとなった際にご相談いただければと思います。

○会長 ほかにございませんか。（なし）

次に（２）「だいせんまちづくり基本条例について」市より説明をお願いします。

○加藤企画部総合政策課副主幹

資料に基づき説明。

○会長 ありがとうございます。説明がございましたが、ご意見ご質問ございませんか。

（なし）

次に（３）「中仙地域自主防災組織結成率の向上について」説明をお願いします。

○草別市民サービス課長

資料に基づき説明。

○会長 ありがとうございます。私は鶯野地区ですが結成率３０％と非常に低いわけ
で、市民サービス課長に直接公民館にお出でいただきまして、お叱りといいますか忠告
をいただきました。地区内には「どうせ災害はないだろう」という風潮がありますが、そ
れは誤った認識ですので、私もがんばってまいりたいと思います。

皆様からご意見ご質問ございませんか。

○松塚勝男委員 今回、支所のほうから消防団の募集があり、年齢１８歳以上とありまし
たが、上限がなかったため、総会で「では何歳までいいのか」というような話がでました。
上限はどのくらいまでなのでしょう。

○副市長 消防団は７０歳で退任ということになっているはずですが、どのような階級であ
っても同じ扱いとなっているはずですが。

○児玉誠良委員 １８歳から６５歳までとなっていました。３年前から全団員が７０歳
定年となっています。７０歳を過ぎた方で手伝いたいと申し出ていただくこともあります
が、もし怪我があった場合が困るわけです。団員は保険に入っていますので、ですので、
地域に若い適任者がおりましたらご紹介いただければと思います。

○松塚勝男委員 団員になるにはそれ相応の訓練が必要だと思いますが、なにか、仕事を
している人でも入れるというような話も聞きましたが。

○児玉誠良委員 中仙支団に入られる方というのは、中仙の住民のほかにも大曲等から中
仙に働きにきている方でも可能です。夜の火災よりも昼の火災のほうが人手不足ですので、
皆さんの周りに適任者がおられましたらご紹介いただければと思います。

○佐々木正一委員 関連してですが、自主防災組織の結成率が低い地区はその地区の消防

団を活用する形で結成を目指すという形が良いのではないのでしょうか。

○会長 皆さんも協力してがんばりたいと思います。ほかにございせんか。(なし)
それでは次に次第8「報告」に入ります。報告1「平成27年度地域枠予算実績報告について」事務局より報告をお願いします。

○事務局（地域活性化推進室）

資料に基づき説明。

実施類型Ⅰ型	9事業	4,490,919円
Ⅱ型	10事業	1,414,105円
Ⅲ型	4事業	720,000円
計	23事業	6,625,024円(執行率94%)

○会長 ただいま説明がありました。ご意見ご質問ございせんか。(なし)
次に次第9「協議」に入ります。協議1「平成28年度地域枠予算執行予定事業について」を議題とします。それでは資料に基づきまして、担当課長より説明をお願いします。

○高橋支所長兼地域活性化課推進室長（以下「支所長」と表記）

山田増美中仙公民館参事（以下「公民館参事」と表記）

草別市民サービス課長

山信田地域活性化推進室副主幹

資料に基づき説明。

□実施類型Ⅰ型

1. なかせんコミュニティスタンプラリー関連経費

事業目的 中仙地域内で実施されるイベントや行事などを対象とした「なかせんコミュニティスタンプラリー」を開催し、住民の興味・関心を高め、参加・来場のきっかけづくりをする。

平成28年度は19事業を対象に実施され、各会場にスタンプ印を設置。住民の獲得したスタンプ数に応じた特典を付与する。

事業概要 スタンプラリーの実施

○対象イベント：なかせん桜まつり他18事業

○期間：4月～10月

○スタンプ特典：<ミニ抽選>スタンプ3個及び6個

<完走賞>スタンプ9個

<最終抽選>参加者全員(スタンプ1個以上)

事業費 655,000円(消耗品費)

2. 国宝「線刻千手観音等鏡像」リーフレット作成事業

事業目的 平成25年に「国宝線刻千手観音等鏡像」リーフレットを作成したが、訪問客や問合せ等に使用し残りわずかとなっている。県内唯一の国宝ということから訪問客が増加傾向にあり、地域のPRにもなるものなので増刷し補充するものである。

事業概要 リーフレット1,000部作成

事業費 99,900円(印刷製本費)

□実施類型Ⅱ型

1. 中仙庁舎西側・八乙女荘・桜寿苑環境美化活動事業

申請団体 長野中16期会

事業目的 国道に面した中仙支所庁舎の周りに樹木が植栽されているが、花を植えることでより良い印象を与えたい。そのため、中仙支所、八乙女荘及び桜寿苑に花を植栽し、地域の環境美化を図るとともに、協働のまちづくりの意識高揚を図る。

事業概要 プランターに花苗の植栽を行い設置する。(マリーゴールド他)

申請額 168,600円(花苗、肥料等消耗品費)

2. 長野地区子供会育成会親子花壇づくり支事業

申請団体 長野地区子供会育成会

事業目的 中仙地域長野地区においても少子高齢化が進み、地域住民の密接なコミュニケーションを図ることが求められている。このことから、以前より公民館事業の中でも特に力を入れて取り組んでいる親子花壇づくりを通じて、今後も長野地区を彩る花のある街づくりに取り組んでいきたい。この活動を通じて環境の美化を図ると共に、管理活動で協働のまちづくりに参加することを目的とする。

事業概要 プランターに花苗の植栽を行い設置する。(サルビア他)

申請額 56,490円(花苗、培養土等消耗品費)

3. コミュニティ・レクリエーション事業

申請団体 中仙コミュニティ・レクリエーション連絡会

事業目的 「仲間とのふれあい、ともに活躍できるまちづくり」をめざし、地域の住民がふれあい、助け合い、活力ある地域づくりをするとともに、次世代後継者の育成のために、これまで中仙地域の各地区で開催されてきた体育祭やレクリエーション事業を支援することを目的とする。

事業概要 各地区運動会、スポーツ祭、体育祭の開催

○第45回鍵見内地区大運動会

6月19日

○第20回長野地区レクリエーションスポーツ祭	6月 5日
○第45回鶯野地区住民体育祭	6月12日
○第55回清水地区住民体育祭	6月19日
○第55回豊川地区大運動会	6月 5日
○第58回豊岡地区住民体育祭	6月 5日

申請額 420,000円(消耗品 70,000円×6地区)

□実施類型Ⅲ型

1. 「ふるさと豊岡」発信キャンペーン推進事業費補助金

申請団体 豊岡小学校PTA

事業目的 豊岡小学校では児童の地域を学ぶ「ふるさと学習」において、学習成果を発信するなど、児童のふるさとを愛する心を育てるとともに、活気あふれる地域づくりを目指している。

この一連の活動をとおして、PTAでは児童の側から積極的に地域に関わることが出来るよう支援するため、学習環境の整備をするとともに地区全体の活性化を推進する。

事業概要 PTAが児童の地域に関わる活動支援の一環として地区内に設置している看板の盤面補修を実施する。

申請額 70,000円(看板盤面フィルム作成等印刷製本費・消耗品費)

2. 中仙地域(幼保・小学校・中学校合同)花いっぱい運動事業費補助金

申請団体 中仙地域小中学校校長会

事業目的 中仙地域の小中学校では6校が連携を図りながら実践研究が進められている。この一環として、小中学校の児童・生徒が連携して「花いっぱい運動」に取り組み、花の水やりや除草などをとおして、学校や周辺環境を整える意識と、地域への誇りや愛着を持つ心を育てることを目的とする。

また、児童・生徒による環境美化に努め、住民運動会、訪問視察団及び学習発表会などで学校を訪れる方々に感謝の気持ちを込めて、沢山の花で歓迎することができる。

事業概要 地域内小中学校の児童・生徒による花苗移植及び水やり等の管理。認定こども園には中学生によるプランター設置。

申請額 300,000円(花苗・土等消耗品費)

○会長 ただいま各担当課長より説明をいただきました。昨年の協議会でも申しましたが、継続事業だからといって安易に了承せずしっかり精査しなさいと指導されております。もちろん事務局でもチェックいたしますが、皆さんも継続事業についてしっかりと審議いた

できればと思います。

それでははじめに実施類型Ⅰ型のなかせんコミュニティスタンプラリー関連経費についてご意見・ご質問を賜ります。(なし)

それでは申請どおり認めることといたします。

次に、国宝「線刻千手観音等鏡像」リーフレット作成事業です。ご意見・ご質問をお願いいたします。

○草薙幸隆委員 このリーフレット1,000部はどこに置かれることになるのでしょうか。

○公民館参事 これまで同様、中仙支所に置いていただければと考えております。

○草薙幸隆委員 公民館には置かないということでしょうか。

○公民館参事 支所に置いていただいて、必要部数を公民館にいただいて希望者に配布する形がいいのではないかと思います。

○柴田真希亜委員 豊岡に小沼神社がありますが、そこも人気があってよく問合せがきます。市外からの小規模なツアーでは、仏像だけがみたいという需要があります。中仙と言えば国宝の鏡像もそうですが、最近は小沼神社を案内する機会が多くなっています。

今回の国宝のリーフレットですが、これに小沼神社等の情報も入れることができないのでしょうか。

○支所長 平成27年度予算で小沼神社のリーフレットは作成しております。文化財保護課の監修をうけまして、これまでの小沼神社中心のリーフレットから、仏像をはじめとした文化財を中心としたリーフレットに変わっております。

○柴田真希亜委員 そのリーフレットは文化財保護課にあるのでしょうか。

○支所長 支所にございます。

○会長 ほかにごさいませんか。(なし)

それでは申請どおり認めることといたします。

次に実施類型Ⅱ型の中仙庁舎西側・八乙女荘・桜寿苑環境美化活動事業です。ご質問ご意見ごさいませんか。(なし)

それでは申請どおり認めることといたします。

次に長野地区子供会育成会親子花壇づくり事業です。ご質問ご意見ございませんか。

(なし)

それでは申請どおり認めることといたします。

次にコミュニティ・レクリエーション事業です。ご質問ご意見ございませんか。

○佐々木正一委員　もう少し予算を増やすということはできないでしょうか。鍾見内地区ではこの補助金をベースにはしていますが、ある程度魅力ある賞品を用意するため各戸から寄付をいただいて実施しているのが現状です。運動会と分館まつりは地区住民が一同に集まる最大のイベントですので、もう少し予算が増えると助かるのではないかと思います。今回は難しいと思いますがよろしく願いいたします。

○会長　経緯としては昨年1万円アップしています。今回要望がありましたので、来年以降ご検討ください。

今回の申請に関してはよろしいでしょうか。(異議なし)

では申請どおり認めることといたします。

次に、実施類型Ⅲ型の「ふるさと豊岡」発信キャンペーン推進事業費補助金です。ご質問・ご意見ございませんか。(なし)

それでは申請どおり認めることといたします。

次に、中仙地域(幼保・小学校・中学校合同)花いっぱい運動事業費補助金です。ご質問・ご意見ございませんか。(なし)

それでは申請どおり認めることといたします。

これで全案件、申請どおり認めることといたします。ありがとうございました。

これで地域枠予算については終わりました、次第10の「その他」ですが、今回は第1回の地域協議会ということで老松副市長はじめ本庁の方々がいらしてあります。なにかご質問・ご要望等ありましたらよろしく願いいたします。

○草薙幸隆委員　本庁で情報活性化委員会に所属しております。こちらでも意見として出ましたが、各部署で色々な計画はたてるのですが、横の連絡がうまくいっていないために個々の事業があまりうまくいっていないのではないのでしょうか。話に出ている自主防災組織もそうですが、それだけを進めるのではなく、自治会に必要なものと合わせて進めていくというような方法もあるのではないかと思います。

また、このたびFMはなびの情報特派員になりましたので、内側から見た率直な感想なのですが、昨年8月に開局しまして約1年が経ち毎日の情報提供にそろそろつまってきた

いるのかなど。加えて、FMはなび自体がまだまだ市民に浸透していないのではないのかなど。認知度が低いために地域で取材する際も苦勞することがありました。FMはなび自体は一生懸命情報発信していますし、この協議会においても一生懸命地域情報の発信をしているつもりですが、横の連携がいまひとつであるため相乗効果がでないのかなど。もっと色々な部署の連携がうまくいけばもっと効果が表れるのではないかと思います。

○副市長 貴重なお話をいただきましてありがとうございます。FMはなびについては担当副市長として関係させていただきましたが、国の許認可等開設までは比較的順調でした。昨年11月より本格的に市街地再開発で整備したスタジオで活動していますが、これからの課題はまさに今ご指摘されましたとおり、NHKやFM秋田と違い地域密着型の情報をいかに地域の皆さんに提供できるかになります。現状では、秋田県版のニュースなど他の局と同じような情報が多いということで、やはり地域に密着した話題、生活に密着した話題を収集して提供していくことが大事なのではないかと思います。

今後、情報を収集していく能力・システムの構築し、住民の皆さんに興味を持ってもらえるようにしていきたいと考えています。現段階では再放送も多いような状況ですが、収入に見合った職員体制ということになりますので、徐々に整備していけたらと思います。

また、FMはなびには災害時に防災・災害情報を発信するという大きな目的もあります。防災・災害情報はそう滅多にだすものではないですが、いざという時には役立つのではないかと思います。今回、災害時に自動的にスイッチが入る防災ラジオを製作し、高齢者・障害者世帯などに約8,000台、無償で貸し出すことを予定しています。また一般の希望者へも2分の1の助成での販売をする予定です。

○草薙幸隆委員 お話のありました防災ラジオについて、今年度予算で製作していることは承知しています。先日、情報活性化委員会で現物を視聴いたしました。その際、担当者よりあげられた問題点として、通常コンセントに繋いで待機している分には問題ありませんが、停電時等に乾電池を使用した場合、万が一の受信に備えて待機させるとすると3時間か4時間しかもたないということでした。今後、その点を修正されるのでしょうか。

○副市長 ラジオを製作する際、電源についてコンセントに差すだけにしようか、乾電池が使えるようにしようか、さらには充電機能をつけようかと色々検討しましたが、価格面も勘案し今回はコンセントと乾電池という仕様にしました。

○草薙幸隆委員 この近辺ですと、災害時に一番懸念されるのが停電ということで、災害時には乾電池を使用してとなるとと思いますので、消費電力の少ないラジオというのが理想なのかなと思います。

○副市長 このラジオを製作する際に、それなりの開発経費がかかっておりまして、何台製作するかというロット次第では価格がどんどん変わってまいります。現在、1万台を発

注して作っていただいています。これに修正を加えるとなると地元のあまり大きくない企業に発注していますので、価格にかなり反映してしまうのかなと思います。

○草薙幸隆委員　そうなりますと、現状のものが完成品ということになるのでしょうか。

○副市長　そのように考えています。ただ、万が一の際に電池切れで使用できないということのないよう周知・PRをしたいと思います。いずれ、災害はそうそうあるわけではないので、常日頃、身近な情報を聴いていただく際にはコンセントを利用していただければと思います。

加えて、はじめにお話のありました自主防災組織についてですが、地域によって何をベースにして作るかというものが違っているようです。自治会イコール自主防災組織というところもありますし、一部の意識の高い人達、エリアで作るという場合もあります。また、南外のように自治会そのものを大きく統合して作るというところもあります。その地域の実情に合わせて作るということで市でも進めています。その際に、先ほど話題になりました消防団員や、市で3年かけて防災士を150名養成しましたので、この方々を核として自主防災組織を作っていただければ比較的作りやすいのではないかと思います。

○草薙幸隆委員　私の集落でも昨年はじめて組織を作りましたが、自治会役員の若返りをきっかけにして作った経緯がありました。

○副市長　若手の方をいかに組み入れるかということも大事だと思います。また、自主防災組織をつくるとヘルメットやタンカなどの初期用品が配布されますので、防災だけでなく多目的に使用していただければと思います。

○会長　支所長のほうから何かお話ありませんでしょうか。

○支所長　2年目になりますが、よろしく願いいたします。今年度は地域活性化ということで、先ほどもお話しましたが、地域の魅力再発見事業がいよいよスタートしております。この後、次々と対象事業が増えてまいります。ぜひ皆さんにもスタンプを集めるために、今まで行ったことのない事業・イベントをこれを機会に知っていただき、参加する事業・イベントが増えることによって、地域の活性化に繋がるのではないかなと考えています。1年間、皆さんと一緒に中仙地域を盛り上げていきたいとおもいますので、ご協力よろしく願いいたします。

○会長　ありがとうございました。副市長さんから何かございませんでしょうか。

○副市長　ただいま支所長よりお話がありましたが、地域の魅力再発見事業については、地域の活性化は郷土愛を持ち地域に誇りをもっている方々が先になって進めていくべきで

はないかということで、支所に地域活性化推進室という組織を作りました。そして今度は何をやるかということをして昨年協議していただき、中仙地域は今年度、なかせんコミュニティスタンプラリーを行うということになっています。

事業については8地域それぞれで行うわけですが、神岡の50歳野球や西仙北の大綱引きのように大仙市を代表するイベントをさらに盛り上げ、ブランド力を高めるといった取り組みがあります。その他の地域に関しては新規事業ということになりますが、その中でも中仙地域の取り組みである、今年度はコミュニティスタンプラリー、29年度以降の地域活動を応援するコミュニティポイント制度というものについては、ちょっと他の地域とは変わっている制度ですが、ぜひ盛り上げていただければと思います。中仙地域にはドンパン祭りという4万人も参加するイベントもありますので他の地域活動とうまく連携して進めていただければと思います。

その他の地域に関して多かったのは観光ツアーで、こちらは神岡・仙北・太田から地域の観光資源を利用したモデルツアーが提案されております。これについては、単独ではなく市としてまとめた形で取り組もうと考えています。ただ、太田に関しては農家を中心に農村交流ということでツアーを組んで実施する予定です。また、協和地域は、地域の食材を使って新たな特産品を開発するという取り組みのようです。地元の熱心なお母さん達と酒造元等を組み合わせて展開していくようです。南外地域は、楯岡城復元ということで史跡を復活させて活性化に繋げようということのようです。いずれ、8地域がそれぞれの地域資源を活用し、地域を活性化させようとするのが今年からはじまる地域の魅力再発見事業になります。この事業については3年を1つのスパンと考えており、それぞれの地域で今年から取り組むこととなりますので、ぜひ地域協議会の皆さんからも色々な面で支援いただければと思います。

○会長 ありがとうございます。委員の皆さんから何かございませんか。(なし)

本日は長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。今日、公民館に桜を撮影している人達がいまして。こまちと桜と一緒に撮りたいということで、なぜここかという中仙の桜がインターネットで紹介されているようです。この時期には多くの方がこられるようですので、特に斉内川河川敷を利用した観光施策があればいいなと思いました。

先ほど説明いただきました25年後の人口が55,000人ということで、人口減少を避けるためには、如何にして高齢者を長寿させるかということも1つの方法だと思っておりますので今後の市政にぜひ反映させていただければと思います。

本日はありがとうございました。

(午後3時36分 閉会)

中仙地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

高橋

一



柴田真希亜

